

# PTA みやぎ

MIYAGI Parent-Teacher Association

地域ぐるみで育てよう、心豊かでたくましい「みやぎの子」

**特集** 第55回日本PTA東北ブロック  
 研究大会富谷黒川大会……………1～8  
 令和5年度優良PTA  
 文部科学大臣表彰を受賞して……………9  
 令和5年度表彰一覧……………10  
 令和5年度三行詩コンクール・  
 善行篤行児童生徒表彰……………11  
 PTAかわら版……………12～13  
 お知らせ……………14

## 第55回 日本PTA東北ブロック研究大会

### 第72回 宮城県PTA研究大会

東北一心 新たな時代へ 一期一笑 ～未来を切り開け!持続可能な地域づくり・PTAづくり

## 富谷黒川大会



### 東北一心 (とうほくいっしん)

令和5年10月14日(土)宮城県富谷市・大和町・大郷町・大衡村で5つの分科会が開催され、翌日10月15日(日)は富谷スポーツセンターにて第55回日本PTA東北ブロック研究大会富谷黒川大会並びに第72回宮城県PTA研究大会富谷黒川大会の全体会が、武田靖裕大会副会長の開会の言葉を皮切りに開催されました。

宮城では8年ぶりとなる大会。全体会前日の晴天とは打って変わり、あいにくの天気にも拘わらず、東北各県津々浦々より1,400名もの会員が集い、昨日の各分科会に引き続き東北一体となって盛況に開催されました。

歓迎アトラクションでは、宮城県富谷高等学校ダンス部と仙臺すずめ踊り杜の紫雀隊の皆さんによる踊りが披露され、記念講演では聖ウルスラ学院英智中学・高校出身、2016年リオデジャネイロオリンピックで日本のバトミントン史上初となる金メダルを獲得した元バトミントン選手の高橋礼華氏をお迎えし、幼少期からの体験談や親としての子どもとの向き合い方など、参加者一同が興味深く聞き入る貴重な講演を頂きました。(P2に続く)

調査広報担当副会長 尾坪 博史





あいさつをする東北ブロックPTA協議会浅野直美会長

# 第55回日本PTA 東北ブロック研究大会 富谷黒川大会

令和5年10月14日(土) ▶ 15日(日)



とうほくいっしん  
**東北一心**

あら じだい  
**新たな時代へ**

いちごいちえ  
**一期一笑**

～未来を切り開け!持続可能な地域づくり・PTAづくり～



仙臺すずめ踊り杜の紫雀隊

全体会の開会行事では、主催者のあいさつとして東北ブロックPTA協議会浅野直美会長から、「PTAに対する考え方も現状、私たちは未来を担う子どもたちに郷土から培った心を繋いでいく責任があり、互いに尊重し合う子どもたちの健全な成長を図ることがPTA本来の目的です」と、理解を深めていただきたい思いを話されました。

また、現在の教育課題に対しての学びを深め、共に解決策を追求することを目的として今大会を開催し、「東北一心」心をついに今しかないPTA活動を充実すべく力を合わせ、子どもたちを取り巻く環境に大きく影響を与えている複雑化した課題解消に向け、家庭・学校・地域の連携を密に、社会全体で見守り育てる環境づくりを推進していくことの重要性を話されました。

続いてご来賓を代表して、宮城県村井嘉浩知事の代



宮城県富谷高等学校ダンス部

読として宮城県教育委員会佐藤芳明副教育長と公益社団法人日本PTA全国協議会后藤豊郎会長よりご祝辞を頂き、開催地である富谷市若生裕俊市長から歓迎のあいさつを頂きました。

ご来賓紹介後に、感謝状・表彰状の贈呈が行われ、最後に次期開催地である青森県「東青大会」のPRで盛会裡に開会行事を終えました。

閉会行事におきましては、鈴木崇史大会副会長より大会宣言(案)及び大会決議が読み上げられ、参加者多数の拍手により承認されました。続いて公益社団法人日本PTA全国協議会后藤会長から東北ブロックPTA協議会浅野会長へ感謝状が贈呈され、最後に山下泰幸大会副会長の閉会のことばにて大会の一切が無事終了しました。

調査広報担当副会長 尾坪 博史

## 記念講演

# 夢を実現させる3つの方法

講師

たかはし  
高橋

あやか  
礼華氏

プロフィール

生年月日：1990年4月19日

出身地：奈良県橿原市

出身校：聖ウルスラ学院英智中・高

競技：バトミントン（女子ダブルス）



高橋礼華氏による記念講演は、まず初めにリオデジャネイロ五輪で金メダルを獲得した時の映像が安室奈美恵さんの『HERO』の曲に合わせて映し出され、あの感動が再び蘇り会場を感動の渦に包み込みました。

高橋氏は、その時の心境を「ロンドン大会では出場を逃し、悔しい思いをしました。4年後は自分たちが金メダルを獲るという強い気持ちを持って練習に取り組み、その成果を試合でも出せた結果が金メダルに繋がった」と話されました。また表彰台から隣のデンマークのペアを見て、「もしかしたら自分たちがそこだったかもしれないと思うと喜ぶのは控えめにしていた」と敗者に対しても気遣うリスペクト精神も感じられました。まさになるべくしてメダリストに選ばれたのだと感じました。

中学校に進学する際、親元を離れ強い先輩がいる「聖ウルスラ」に行きたいと話した時も、両親は快く背中を押してくれました。そこから6年間の寮生活が始まり、大変な毎日を過ごしたといいます。ただ大変な毎日の原点には、幼少期に母から言われた「自分のことは自分でやる」精神が宿っていたからこそ頑張れたと高橋氏は話されました。

高校になり1学年後輩の松友美佐紀選手との出会いがきっかけで大きく人生が変化したことも話されていました。

メンタル面では「試合ではあまり緊張しません。な

ぜなら今日を迎えるまで準備してきたことを思い出し、負けるわけがないと戦っています。試合が始まると楽しくて仕方がありません。結果を気にせず、まずはやってみます。それでダメなら優勝できる準備ができていなかっただけ」まさに超ポジティブな高橋氏です。

高橋氏は現在U19（日本バトミントン協会ジュニアナショナルチーム）のコーチとして子どもたちに指導しています。その中で大事にしていることは「理解してもらおうこと」と話します。なぜなら、「試合でも最後は自分で判断し切り開いていかなければなりませんから。そのために、言葉を選び時間をかけ中途半端な気持ちでは指導はしません。しっかりと理解するまで伝えます」と指導者としての強い信念が感じられました。

会場からの質問で頑張っている子どもとの向き合い方について「とにかく見守ってあげます。頑張りはダメ。他の子と比べるのもダメ。違うことでリフレッシュさせます。子どもの好きなご飯を作ってあげるとか。それだけでモチベーションも上がります。その子に合った言葉をかけます。言いすぎることはよくありません」まさに今の自分にも当てはまるようなアドバイスをいただいたように思えました。

メダリストとして取り組んできた経験を惜しみなく話していただき貴重な時間となりました。

調査広報委員長 月岡 正博



## 第1分科会

## 環境教育

会場：富谷スポーツセンター

### 提言者

基調講演者	メイナード・プラント氏	株式会社EIGHT CROWNS 代表
基調講演者	菊池拓哉氏	株式会社EIGHT CROWNS
基調講演者	村上幸枝氏	NPO法人SCR代表
コーディネーター	齋崇之氏	宮城県富谷市立東向陽台小学校PTA副会長
パネリスト	メイナード・プラント氏	株式会社EIGHT CROWNS 代表
パネリスト	菊池拓哉氏	株式会社EIGHT CROWNS
パネリスト	村上幸枝氏	NPO法人SCR代表
パネリスト	村上照幸氏	青森県PTA連合会前副会長
パネリスト	高崎かおり氏	宮城県富谷市立富谷中学校元PTA会長

### 基調講演

第1分科会では『持続可能な社会・環境教育』をテーマに、第1部の基調講演は、株式会社EIGHT CROWNS代表メイナード・プラント氏、菊池拓哉氏、NPO法人SCR代表村上幸枝氏から『ミツバチの生態から考える子どもたちへ残す環境保全への探求』を演題として行われました。

ミツバチは「環境指標生物」に位置付けられており、ミツバチが元気に生育する地域は人間にとっても住みやすい環境とされています。しかし、大量の作物を育てるために農薬を乱用することで、身近な生態系が崩れ、私たちの生活を脅かしています。市役所と近隣農家の協力を得ながら、減農薬を進め、人とミツバチに優しい環境作りについて、メイナード氏と菊池氏からお話をいただきました。

村上氏からは「養蜂」を通し、地域や次世代の子どもたちにつなぐ活動を中心にお話をいただきました。不登校特例校『富谷中学校西成田教室』の総合学習の一貫としての活動では、「日常では味わえない非日常体験を通して、子どもたちの心がリフレッシュされ、回数を重ねるごとに子どもたちの笑顔が増え、自主性が育まれていることを実感することができた」と話されていました。



基調講演者・パネリスト（左から）菊池拓哉氏、メイナード・プラント氏、村上幸枝氏、コーディネーター齋崇之氏

### パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、基調講演でお話いただいた3名の他に、青森県PTA連合会前副会長村上照幸氏、宮城県富谷市立富谷中学校元PTA会長高崎かおり氏が登壇し、「食育を通して持続可能な環境教育」について討議が行われました。

青森県PTA連合会前副会長村上照幸氏はフードバンクの活用について、お話をいただきました。主な事例として冠婚葬祭などでいただいた食品や缶詰等が不要な場合は、ファミリーマートに設置してあるフードBOXに入れていただくと、地元のこども食堂等に行き届くシステムになっており、子どもたちへの支援やフードロスにも繋がるということを発表されました。

また宮城県富谷市立富谷中学校元PTA会長高崎かおり氏からは、包装容器の削減、安心安全な食品の生産、食品ロスを減らす取り組みなどを紹介していただきました。その他に、これからの子どもの食育について「一人ひとりそれぞれ食べる量や食べる物も違います。食べられないから不健康とか食べられるから偉いとか、そのような指導ではなく、その子の食べられる量を把握することが大事ではないでしょうか」という発表に会場からも拍手喝采となりました。

複数のパネリストの意見を聴き、改めて「食」について考える契機となった分科会でした。

宮城県PTA連合会常任理事 佐々木 篤志



パネリスト（左から）高崎かおり氏、村上照幸氏



## 第2分科会

## 教育環境

会場：富谷市武道館

### 提言者

基調講演者	菅原義一氏	前富谷市教育長
コーディネーター	村上裕子氏	富谷市ユネスコ協会理事
パネリスト	菅原義一氏	前富谷市教育長
パネリスト	高橋賢史氏	秋田県PTA連合会副会長
パネリスト	菅原淳氏	一般社団法人岩手県PTA連合会副会長
パネリスト	尾坪博史氏	宮城県PTA連合会副会長

### 基調講演

第2分科会は、『地域・家庭との連携』をテーマに開かれました。情報化社会が進む中で、子どもたちの健全な成長を促す環境は予測が難しい確実性が増しており、子どもたちの環境をより良いものに整えるために、家庭と学校が目標を共有し、協働していくことが必要です。

この取り組みを、「参加」から「参画」に高めるためにはどうしたらよいかという課題の基、前富谷市教育長菅原義一氏による基調講演『おおきなかぶで三方よしの学校』と題しご講演をいただきました。興味深いお話をたくさん聞くことができましたが、中でも「優しさ」と「易しさ」を大切に、「一人ぼっちにさせない学びが重要だ」とお話されていました。

また、「教え合いを通じて地域との総合交流を促し、授業参観では批評ではなく、学びに対する建設的な交流を大切に、インプットよりアウトプットが大切だ」と話されました。

まとめとして、「教え育むことは学ぶことであり、大人も学び続けることが大切である」とお話いただき多くの学びがありました。

### パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、コーディネーターの富谷市ユネスコ協会理事村上裕子氏と、パネリストとして、講演をしていただいた菅原義一氏（宮城県）、秋田県PTA連合会副会長高橋賢史氏、岩手県PTA連合会副会長菅原淳氏、そして宮城県PTA連合会副会長尾坪博史氏をお招きして、基調講演でお話いただいた内容を参考に、『地域・家庭・学校の連携』や、各地域・各家庭における現状や子どもたちの状況について話し合いました。

自分の子育てに対しての考えを話していく中で、パネリストの菅原淳氏が「子育てに正解はない」と話していたのがとても印象的でした。また、高橋氏は「大人こそ失敗経験を子どもたちに話すことで、子どもたちからの共感も得ることができ距離も近くなるのでぜひ話してほしい」と話され、参加していたPTA会員もうなずきながらお話を聞いていました。

最後に菅原義一氏は、孔子の論語を引用し「知ることよりも好むこと、好むことよりも楽しむことが大事であり、PTA活動も、子どもたちの活動も同じである」と話されました。あつという間のパネルディスカッションでしたが、実践的なお話を聞くこともでき大変盛り上がりました。

調査広報委員 浅沼 賢史



基調講演者 菅原義一氏



コーディネーター 村上裕子氏



パネリスト（左から）菅原義一氏、高橋賢史氏、菅原淳氏、尾坪博史氏



## 第3分科会

## 地域連携（協働教育）

会場：大和町ふれあい文化創造センター

### 提言者

基調講演者	廣瀬隆人氏
コーディネーター	廣瀬隆人氏
パネリスト	中田秀樹氏
パネリスト	野木和洋氏
パネリスト	門間浩泰氏
パネリスト	千葉康平氏

一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事  
 一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事  
 山形県米沢市立第五中学校PTA会長  
 福島県PTA連合会副会長  
 宮城県PTA連合会顧問  
 宮城県大和町教育委員会生涯学習課

### 基調講演

一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事廣瀬隆人氏より『地域連携とPTA～コロナ後のPTA活動に向けて～』について講演を頂きました。

コロナを理由に様々な活動の中止が余儀なくされ、中止する心地良さを感じている方も多かったのではないのでしょうか。廣瀬氏は「この心地良さは非常に危険であり、改めて人と人がつながることの意味と大切さを考えるべきだ」とお話されました。

地域は人のつながりでできています。一度無くしてしまった行事を復活させるのはとても困難です。特に地域のお祭りは地域づくりのシンボルです。子どもたちは地域づくりの担い手ですから、私たち大人がしっかりと行事の意味を理解しバトンタッチしていくことがPTAの役割ではないでしょうか。

近年は少子化の為、昔の学校の規模では無くなっています。また、共働き世帯の増加により、PTAや地域活動へ参加できる人が少なくなっている為、昔のような活動が困難になっています。現在の規模に合わせて行事の機能を維持したまま各行事を合わせて行う等ダウンサイジングの検討も必要です。

世の中のニーズに合わせて無理に新しいことを始める必要は無く、先人事例（各地域の歴史など）を再確認し1+1=1（**太った1**）を意識すると良いとのヒントを頂きました。

PTAや地域の運営を行う人はいつも同じで不公平だと感じている方も多いと思います。しかし、「各個人、家庭における背景は各々違いますので一括りに平等にしようとする限界があります。そういった各個人の背景も踏まえ、PTA、地域活動に公正に参加できる体制づくりも必要になる」と廣瀬氏はお話されていました。

子どもたちは様々な人と関わりを持つ為の基礎を学校で学んでいます。子どもたちの健全な成長には良質な大人との関わりが重要となります。

「短絡的なPTA不要論を主張し、大人の一時の苦しさや煩わしさの為に分裂、孤立していく地域を子どもたちに託して良いのでしょうか。その様なことを自分たちで考え、検討する必要があるのではないかと話されました。



基調講演者・コーディネーター 廣瀬隆人氏

### パネルディスカッション

山形県米沢市立第五中学校PTA中田秀樹会長からは「朝のあいさつ運動」について発表を頂きました。同地域の小学校のPTAで実施していた活動を真似て始めたのがきっかけですが、徐々に先生や地域の方も参加するようになり、地域全体の活性化につながりました。廣瀬氏は「小学校と中学校には大きな川が流れていますが、PTAにはそれを乗り越える力がある」と好評をされました。

福島県PTA連合会野木和洋副会長からは「土曜学習」についての紹介がありました。「土曜学習」は地元企業がサイエンスショーなど社会教育の支援を行っています。廣瀬氏から「土曜日にボランティアで行うことに対する負担感はないのか」という問いに、野木氏は「大人が楽しんで行うことが一番だ」と回答されました。

宮城県PTA連合会門間浩泰顧問からは宮城県山元町立中浜小学校の閉校に伴うタイムカプセルを開封する行事をお祭り形式（以前からある「けんこ祭り」を復活させる）で行った事例を紹介されました。こちらには20代の卒業生も多く集まり大盛況だったとのこと。廣瀬氏によると「20代など若い世代の集客にはインスタなどのSNSのネットワークが有力だが、お祭りや郷土芸能などの昔からあるものに人がつながる為の『接着剤』となるヒントがあるのではないかとまとめられました。宮城県大和町教育委員会千葉康平氏からは、地域の郷土芸能である「各地域の神楽」を各学校で伝える活動について紹介されました。また、宮城県大和町立吉岡小学校早坂基会長からは吉岡小学校の150周年事業として老朽化による校舎解体に伴い、学校への感謝のメッセージを伝える「落書き大作戦」を地域の方も巻き込んで実施した事例について紹介がありました。廣瀬氏は「地域とうまくつながれる学校には地域に向ける眼差しが先生方にもあると感じる」という感想を述べられました。

最後に「良い学校は良い地域にしか存在しない」だから学校を核にした人のつながりを大切にしなければなりません。良質な大人と子どもが会うことで、地域づくりの担い手を育成できるのです。「今までの先人が繋いできたことに目を向けて地域、PTAなど線を引きずらずに地域づくりを行うことが共同教育の理念だ」とまとめられました。

調査広報委員 伊藤 正敏



パネリスト（左から）中田秀樹氏、野木和洋氏、門間浩泰氏、千葉康平氏



## 第4分科会

## 家庭教育

会場：大郷町文化会館

### 提言者

基調講演者	しまひろこ氏	お母さんシンガーソングライター
コーディネーター	竹下小百合氏	NPO法人ファザーリングジャパン東北代表理事
パネリスト	しまひろこ氏	お母さんシンガーソングライター
パネリスト	佐藤真奈氏	仙台市PTA協議会副会長
パネリスト	棟方丈博氏	青森県PTA連合会副会長
パネリスト	佐藤英氏	宮城県PTA連合会副会長

### 基調講演

第4分科会は『家庭教育』をテーマに大郷町文化会館を会場に開催されました。

2018年より仙台市在住で、2人のお子さんをもつお母さんシンガーソングライターのしまひろこ氏を講師にお招きしました。『世界のハッピーはお母さんのハッピーから』をテーマにした、子育て中のママの気持ちや、家族の愛を歌ったしま氏のオリジナル曲を披露していただきました。

1曲目の新しい家族の誕生を楽しみに待っている家族の気持ちを歌った『ハッピーハッピーバースデー』からはじまり、ママたちの子育てエピソードを歌った『クローバー』。3曲目の『たまごちゃん』では、会場みなさんも一緒に振り付けを踊りました。

笑みがこぼれ会場全体が一体となりとても盛り上がりました。「どんな時でも子どもたちが大好きだよ」との気持ちを歌った『大好き』、広い世代に愛を伝える『僕は愛に届くかな』と続き、最後の『その先へ』では、会場全体から大きな拍手が湧き上がりました。しま氏の歌を通して、お子さんや家族への愛が伝わり、改めて子どもや家族への思いや接し方などを見つめ直すよい機会なるとても有意義な講演となりました。



基調講演者 しまひろこ氏

### パネルディスカッション

#### 青森県PTA連合会副会長 棟方丈博氏

青森市PTA連合会では、親子で体験し、考えを共有する機会作りとして親子イベントを定期的に行っています。また、存続の危機にあった「市P連大型ねぶた」は子どもたちに参加の是非を問いかけ今後も継続することとなりました。子どもの元気の源は親の笑顔。無理せずできる時に、できることを、できる範囲で楽しく取り組むことがポイントと語りました。

#### 仙台市PTA協議会副会長 佐藤真奈氏

市内の小中学校の交流を目的に開催される仙台市PTAフェスティバルは、「子どもはもちろん、運営側の大人も楽しもう」の精神が代々受け継がれています。PTA活動自体が子どもの為、活動する大人の為であるべきであると語りました。

また、お子さんの部活動でのエピソードを語られ、各家庭に合った幸せの形があり、子どももその気持ちを感じ取っている関係性が大切と話されました。

#### 宮城県PTA連合会副会長 佐藤英氏

勤務されている子育て支援センター「こころん」では、子育て世代が地域で孤立化しやすい現状の中、話を聞いて共感し、共有して接することを心がけています。また、「子どもたちはもちろん、大人たちも笑顔に」と親子で参加できるイベントを開催しています。

子どもたちは、親の気持ちを敏感に感じ取っています。自分の時間を作り楽しむことで、笑顔で家族に接することができます。また、家族との時間をとても大切にしていると話されました。

#### 第4分科会まとめ

家庭教育はすべての教育の出発点、保護者の幸せが子どもたちの幸せでもあります。

自らも楽しんで活動することが大事です。

宮城県PTA連合会 理事 星 岳大



コーディネーター 竹下小百合氏



パネリスト（左から）しまひろこ氏、棟方丈博氏、佐藤真奈氏、佐藤英氏



# 特別分科会

# 人権教育

会場：宮城県大衡村立大衡中学校

## 提言者

基調講演者	湊 谷 愛 氏	宮城県スクールカウンセラー
コーディネーター	小 川 克 也 氏	宮城県大衡村立大衡中学校PTA元会長
パネリスト	湊 谷 愛 氏	宮城県スクールカウンセラー
パネリスト	松 井 愛 氏	山形県議会議員 山形ぶらいず相談役
パネリスト	早 坂 将 氏	岩手スクールカウンセラー
パネリスト	平 吹 淳 氏	宮城県PTA連合会副会長
パネリスト	佐々木 陽 寿 氏	宮城県大衡村立大衡小学校PTA副会長
パネリスト	横 岡 千和子 氏	青森県PTA連合会会長

## 基調講演

親が子どもに望むことのアンケートの結果は思いやりのある子・自立できる子・自信が持てる子が上位のようです。

ある家庭の話を紹介します。その家庭は小さいころから教育に力を入れてきました。しかし思春期になりすれ違うことが増えてきて最近では投げやりで何をしても中途半端に見えてしまうのでついつい「ちゃんと宿題をやった？英語の勉強をしたの？部活は？」と聞いてしまいます。それに対して子どもは反発し顔を合わせれば言い合いをすることが増えてしまいました。

その都度子どもは部屋に閉じこもり時には家を出てしまうこともあり親は子どもとどう向き合えばいいのかと涙を流しながらカウンセラーに相談してきたのです。

話を聞くと親は決して子どもを認めていないわけではなくむしろよく頑張っていると思っているのに思いを伝えることができません。

「本当に伝えたいことは何ですか？」と聞くと「あなたがいたからここまで頑張ってもらえた」これが本当は言いたいことの核のようですが一度崩れた信頼関係を修復することは簡単ではありません。

子どもは親からいつも怒られていると思っていましたし、「頑張れ」と言われても結果が出せないことが親の邪魔をしていると感じていたようです。カウンセラーにより親の本当の気持ちを伝えると子どもの心は整理されたのか、今では自分の進みたい進路を目指し努力をしているそうです。

思春期の子どもは親がうざったい時期でそれは正常です。指示、指導されることがうざいことが多く、自分で考えたい時期です。夢中になっていることに興味を持ち、話を聞いてみる時間を作ってみてください。親からすれば矛盾だらけでダメ出ししたいことだらけなのですが「一旦子どもの言っていることを受け入れて対話をすることで親子の関係は良くなることでしょ」と話されました。



基調講演者 湊谷愛氏

## パネルディスカッション

子どもが学校に行きたくない素振りが見えたらどうしたらいいですか？お子さんが学校に行くエネルギーがなくなってしまっている状態が見られる場合、カウンセラーはまず話を聞きお子さんを安心させることをします。

次に現状がどうなっているか俯瞰的に見られる状態かを確認し、一歩踏み出す勇気があるかの段階を踏みながら徐々に学校に行くエネルギーを貯める。「頑張りなさい」は安心とは逆でプレッシャーになることがあるので要注意です。

親の自尊感情を高めるために家庭内でできること、夫婦で関わるには子どもは夫婦の様子をととても良く見ています。会話で意識してほしいのは「ありがとう」を使うこと、共働き世帯などは夫婦の役割をフェアにすることで家族の役割が生まれます。

日々の生活に追われていながらにしがちです。例えば携帯を見ながら話を聞いてしまいます。そのようなことってありがちですよ。1日の中で少しの時間でよいので家族と会話をながらにしない積み重ねがとても重要です。親がながらで会話を聞けば子どももながらになってしまう。なんとなく理解できますね。

子どもの行動には親から受ける影響が少なからずあるということのようです。日々の生活の中でちょっとした意識を変えることで雰囲気が変わることがあるようでした。

調査広報委員 谷末 泰弘



コーディネーター 小川克也氏



パネリスト（左から）佐々木陽寿氏、平吹淳氏、松井愛氏、コーディネーター 小川克也氏、パネリスト 早坂将氏、湊谷愛氏、横岡千和子氏





令和5年度優良PTA文部科学大臣表彰を受賞して

宮城県塩竈市立第二小学校

父母教師会会長

鈴木

友規子

この度は、優良PTAとして文部科学大臣表彰をいただきましたこと、塩竈市立第二小学校父母教師会会員一同大変嬉しく思います。この表彰はこれまでのPTA活動にご尽力いただいた歴代の役員の皆様の活動が、子どもたちの為に純粋な奉仕の精神で成り立ってきたこと、また学校の先生方、地域の皆様にPTA活動に多大なるご理解とご協力をいただいたことによる受賞だと思っております。会員を代表しまして、心より御礼申し上げます。

さて、本校は大正14年9月1日に開校した学校で、令和7年9月に創立100周年を迎えます。第二小学校は「いそ山」と呼ばれる山のうえに建てられました。昭和22年に制定された校歌には「港をいだく いそ山上に 太平洋をま下にしつづ」という歌詞があり、子どもたちが通う通路からは海を見下ろすことができ、太平洋の海風を感じな



校門前から塩竈湾を臨む

がら勉学に臨む事ができる大変自然豊かな地域にあります。

毎年7月には、塩竈みなと祭が開催され「よしこの塩竈」（塩竈伝統の民謡の「塩竈甚句」から創作された曲）に合わせて市内の小中学生がパレードを行うための安全確保をPTAが支援をする等、子どもたちのサポートを実施しています。



みなと祭



みなと祭

により、会員の皆さんから見直しを希望する声が大きかった球技大会、本部役員の選出方法、広報活動、奉仕活動の

域のシルバー人材センターに協力していただくことで、子どもたちの手だけでは至らない箇所（今年は特にトイレ）をサポートしていただく



塩竈神社

こととしました。日頃の清掃だけでは行き届かない箇所まで大変綺麗になりました。今後も子どもたちが気持ちよく学校生活を送れるようPTAとして支援していきたいと考

見直し等、これまで「当たり前」に「役員を選出して、毎年踏襲の行事や仕事を実施する」この「当たり前」という前提を見直すことに重点を置いて見直しを進めてきました。見直しの具体例として、毎年ボランティアを募って夏休みに「奉仕活動」として実施していただきました清掃活動です。昨今の異常気象により、夏場に活動を実施することが難しいという判断から、清掃自体を外外部へ委託し今年度より地

えております。この度の受賞を糧に、なお一層子どもたちの健全な育成に寄与できますよう今後の活動に取り組んでまいります。ありがとうございました。



校舎

# 令和5年度表彰一覧

(敬称略)

※県P役員は令和4年度役職表示  
 ※一般会員は令和5年度役職表示

## P T A 活動振興功労者表彰

個人

宮城県P T A連合会元会長 杉 山 昌 行  
 宮城県P T A連合会前会長 鈴 木 信 一  
 宮城県P T A連合会顧問 志 村 洋 一

## 文部科学大臣表彰

団体

塩竈市立第二小学校父母教師会

## (公益社団法人)日本P T A全国協議会長表彰

団体

利府町立菅谷台小学校P T A  
 亘理町立吉田中学校父母教師会

個人

宮城県P T A連合会長 門 間 浩 泰  
 宮城県P T A連合会副会長 石 井 義 之  
 東松島市立鳴瀬未来中学校P T A顧問 熱 海 光太郎  
 大崎市立鳴子中学校P T A会長 高 橋 慶 行

## (公益社団法人)日本P T A全国協議会特別表彰

個人

※今年度役職表示

宮城県P T A連合会会長 浅 野 直 美  
 宮城県P T A連合会副会長 尾 坪 博 史  
 宮城県P T A連合会副会長 畑 山 和 晴  
 宮城県P T A連合会監事 齋 藤 勇 介  
 宮城県P T A連合会監事 鈴 木 洋 市  
 宮城県P T A連合会監事 高 橋 直 行  
 宮城県P T A連合会常任理事 佐々木 篤 志  
 宮城県P T A連合会常任理事 月 岡 正 博  
 宮城県P T A連合会前常任理事 阿 部 友希子  
 宮城県P T A連合会前インターネット委員長 玉 上 雅 則  
 南三陸町立伊里前小学校P T A元会長 畠 山 貴 博  
 登米市立浅水小学校P T A元会長 佐 藤 成 賢  
 白石市立白石中学校父母教師会元会長 滝 深 光 昭  
 涌谷町立月将館小学校P T A前会長 中 村 治 明  
 宮城県P T A連合会事務局長 佐 藤 博 明

## 東北ブロックP T A協議会長表彰

団体

富谷市立富谷小学校P T A  
 美里町立不動堂中学校P T A

個人

美里町立不動堂中学校P T A会長 平 吹 淳  
 大崎市立古川東中学校父母教師会顧問 高 橋 洋一郎  
 亘理町立逢隈中学校父母教師会元会長 南 部 浩 秀  
 大崎市立古川南中学校P T A前会長 五 島 啓 太  
 大崎市立古川東中学校父母教師会会長 八 木 昌太郎  
 東松島市立矢本第一中学校父母教師会前会長 佐々木 豊  
 山元町立山下第一小学校父母教師会会長 小 泉 大 輔  
 七ヶ浜町立七ヶ浜中学校父母教師会会長 佐 藤 直 美  
 大崎市立三本木中学校P T A会長 渋 谷 祐 亮  
 涌谷町立涌谷中学校P T A前会長 藤 村 かおり  
 気仙沼市立中井小学校父母教師会顧問 千 葉 充  
 登米市立西郷小学校P T A元会長 後 藤 幸一郎  
 宮城県P T A連合会常任理事 佐 藤 英

## 宮城県P T A連合会優良P T A表彰

白石市立白石第一小学校父母教師会  
 蔵王町立遠刈田中学校P T A  
 村田町立村田第一中学校P T A  
 丸森町立館矢間小学校P T A  
 山元町立山下小学校父母教師会  
 名取市立相互台小学校P T A  
 多賀城市立東豊中学校父母教師会  
 富谷市立あけの平小学校P T A  
 大崎市立古川中学校父母教師会  
 美里町立南郷中学校P T A  
 色麻学園P T A  
 石巻市立山下小学校父母教師会  
 石巻市立広瀬小学校P T A  
 石巻市立中津山第一小学校P T A  
 東松島市立宮野森小学校P T A  
 登米市立米山中学校P T A  
 登米市立西郷小学校P T A  
 南三陸町立戸倉小学校P T A

令和5年度

# 三行詩コンクール推薦作品

楽しい子育て全国キャンペーン～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～

三行詩とは、三行程度の短文の意味合いであり、必ずしも三行である必要はなく、俳句のようなものでも構いません。家族の会話やコミュニケーションから育まれるきずなや家庭のルール、子どもたちの基本的な生活習慣づくりなどの家庭教育、一人ひとりの命のつながりや大切さをテーマとして短文で表現したものである。



宮城県PTA連合会会長賞（日本PTA全国協議会全国コンクールへの推薦作品）

## 【小学生の部】

氏名	学校名	学年	作品
佐藤 瑠姫	名取市立館腰小学校	3年	だきしめる 心おちつくおまじない いつもママがいたみを取ってくれた 今では自分がおな番
鈴木 沙和	石巻市立中津山第一小学校	2年	ママとのハグ きょうも元気のおまじない
佐藤 息吹希	名取市立館腰小学校	5年	テレビ消しての夜ごはん 楽しい会話もごちそうになるね
松本 昂大	富谷市立日吉台小学校	2年	ないしょでせんたくものをたんだ なみだをながしてよこおおかあさん ぼくもうれいきもちになった
阿部 晴梨	石巻市立釜小学校	3年	いそがしくても何をしてもいつも話を聞いてくれる 私は、それがとてもうれしい

## 【中学生の部】

氏名	学校名	学年	作品
吉田 瑠花	石巻市立桃生中学校	1年	「大丈夫。いつでもあなたの味方だよ」この家族に言われた言葉に私はどれだけすぐわれたことだろう
鈴木 里彩	石巻市立桃生中学校	3年	毎朝の「いつてらっしゃい、気をつけて」は私の背を押す言葉のお守り
及川 太煌	石巻市立桃生中学校	1年	「考えてその子の命 その子の人生 心の傷は残ったまま」
三浦 璃子	加美町立鳴峰中学校	1年	家族ですごくすべての時間 一つ一つが幸せで 一つ一つが大切だ
水戸 大惺	亶理町立吉田中学校	2年	また言えない「行ってきます」と「ありがとう」母の日に赤面しながら「いつもありがとう」

## 【一般の部】

氏名	学校名	作品
阿部 梓	大崎市立古川第三小学校	くたくたに疲れた私の栄養剤 抱きつく君の笑顔とぬくもり
渡邊 莉奈	石巻市立開北小学校	背が伸びた 喜ぶ娘と反対に 時よ止まれと思う母心
武田 英俊	富谷市立日吉台小学校	朝のグーツ ただただ祈る 無事帰宅
荻原 明美	富谷市立日吉台小学校	我先に今日の出来事話す君たち 一気に聞けないもどかしさ 聖徳太子になれたらな
越河 牧子	名取市立館腰小学校	君たちは泣く事が減って 母が手伝ってあげる事も減りました 君たちに手伝ってもらう事の方が増えました 母は自分の時間が増えました 同じ位さみしく感じる時間も増えました

## 令和5年度 善行篤行児童生徒表彰



### 【団体】

気仙沼市立月立小学校	『敬老帳』は地域の方々に感謝と心和む温かな気持ちを伝えてきました
------------	----------------------------------

### 【個人】

三浦 千弦	岩沼市立玉浦中学校	町内を徘徊していた高齢者に付き添い無事自宅へ戻れるよう手助けをしました
小野寺 心絆	登米市立佐沼小学校	自動販売機前で現金を拾い学校へ届け後に警察へも届けました
佐藤 誠太郎	白石市立東中学校	防災委員長として防災に取り組み校内の安全と学校全体の防災意識向上に貢献しました
佳山 慶祐	岩沼市立岩沼西中学校	帰り道がわからなくなり交差点で迷っていた小学校1年生の児童を無事自宅へ送り届けました
日野 遥希	気仙沼市立階上小学校	路上で転倒し起き上がれずに困っていた男性に声をかけ起き上がるのを手助けしました
村上 美結		
本間 優希飛		
齋藤 向日葵	山元町立山元中学校	ヘアドネーションに関心を寄せ時間をかけて髪を伸ばし無償で提供するなど活動に協力しました

# かわら板



石巻市立  
広瀨小学校  
では地域、  
学校、子ど  
も育成会、  
PTAが協  
力して子ど  
もたちの学  
びをサポート  
する「深  
谷サークル」という  
取り組みを  
行っており  
ます。  
毎年冬に  
なると地域  
の高齢者の  
方をお招き  
してお幣束  
や繭玉、し  
め縄作りと  
お正月の支  
度を学ぶ  
『お正月教

室』を開催しています。  
高齢者の方々と触れ合いながらお正月の支  
度を学び、最後にコマ回しや羽付きなど伝統  
的な遊びを教えて貰いみんなで楽しむことで  
子どもたちに伝統的な風習や遊びを伝え、地  
域の方々と交流を深めています。

石巻市

地域と共に  
伝統文化の継承を

通信員 佐藤 博

名取市

名取市文化セミナー  
3年ぶりの対面開催

通信員 松浦 淳司

令和5年11月25日に名取市文化会館  
大ホールにおいて3年ぶりに対面によ  
る名取市父母教師会連合会文化セミナ  
ーが開催されました。

今年度は東方落語家六華亭遊花さんをお招きし、『子育てに関わる全ての人に笑顔と明日の気力を与える落語&トーク』と題し、御講演いただきました。子育てに忙しい毎日ですが、大いに笑い、そしてほっこり、ジーンと涙する楽しいひとときとなり、盛会でした。やはり対面で、マスクのない笑顔いっぱいのお会場……。いいものでした。



気仙沼市立津谷中学校では、公開研究会として、研究主題『自ら学び、考え、表現できる生徒の育成』にICTを活用した学びを3年間取り組んでいます。今年度は最終年となり生徒たちもかなり授業の環境に慣れてきている様子です。  
現代は、子どもたちにタブレット端末が一人一台の環境が整えられ、タブレットドリルやロイロノートでの意見交換等のアプリケーションは常識化しつつあります。

そこで、本校では、ICTを活用した対話的な学習、日常的な授業での活用、探究的な学習に重点をおいた活用に授業実践を進めています。  
保健体育では、器械運動でマット運動と平均台等を生徒自身が選択し、技ができる楽しさや喜びを経験するとともに、運動視察の方法や体力の向上を理解しようとしている様子でした。

又、生徒からのアンケートでは、運動すること、器械運動に対する好感度が低く前向きでないことが伺え、先生方は、課題解決に向けた生徒のつまづきを見逃さない様に、生徒の様子を見ながら指導・支援を続けているこの様な取り組みは英語や数学等の各教科に同様な取り組みがなされてきました。

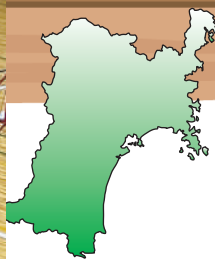
私たち保護者も、学習進捗、到達度を把握に努め、学習基盤となる資質能力の育成や個に応じた支援を、学校と連携を深めながら安心して学習できるように家庭でもICTを実践していかなければならない時代になってきたのかもしれない。



ICTの新たな可能性を  
教育指導に生かす

気仙沼市

通信員 木村 健一



# PTA

## 多賀城市

人と繋り  
人から学ぶ

通信員 伊藤 正敏

多賀城市父母教師会連合会（以降、市P連）では、年度初めの6月にスポーツ大会を行っています。先生方、PTA役員、会員共に新しい顔ぶれが並ぶ時期、誰でも参加し易い、玉入れを学校対抗で行いコミュニケーション環境を構築するのに絶好の機会だと感じています。

市P連セミナーでは、今年度『LGB TQ』についての講話を頂き、個性の尊重、多様性を認め合うとは何かを学びました。

市P連教育に関わる懇談会では、『安心・安全な学校・家庭にする為に』をテーマに、『KJ法』を用い、先生方、保護者互いの考えを発表することで、今後の教育現場・家庭での課題を見つけることができました。

また、多賀城市立東豊中学校PTA事業として、夏休み期間中に『朝ごはん大賞』という生徒の作った朝ごはんを紹介してもらった企画も行っています。食育を通じて、健全な生活を意識してもらおう狙いがあります。

市P連の各行事には、市長、教育長はじめ多くのご来賓の皆様が積極的に参加頂いていることも活気のある活動に繋がっていると感じています。



令和5年10月に、4年ぶりに『たて小泊まろう会』を、4年生から6年生までの児童33名が参加して実施しました。

今回の主なテーマは『防災』。1日目のペットボトルを使ったランタン作りや夜のカレイライス作りでは、水を節約するなど防災を意識した生活を行いました。その他にも、地域に伝わる神楽の鑑賞や地域の花壇の植栽など、地域の方々と交流しながら活動を行いました。夜の肝試しも子どもたちの思い出の1つとなりました。

これからも地域の皆様と一緒に、子どもたちの健全な成長に尽力していきたいと思えます。

## 丸森町

思い出に残る  
学校宿泊体験

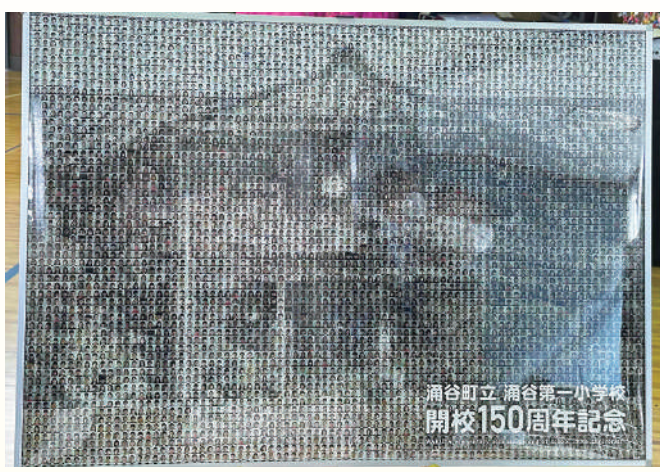
通信員 佐藤 俊明

## 遠田郡

開校150周年  
記念事業開催

通信員 大上 さつき

涌谷町立涌谷第一小学校は開校150周年を迎え、令和6年11月4日に記念事業を行いました。お笑い芸人わつきやい様の記念講演、旧校舍モザイクアートの作成、記念植樹と町内の皆様のご参加もいただき盛大に開催いたしました。子どもたちも、たくさんの方々から繋がって150年の歴史を感じ、さらに繋いでいけたらと目を輝かせていました。



## 蔵王町

「全盲のドラマー」  
をお迎えして

通信員 富田 康弘

令和5年12月10日（日）、全盲のドラマー佐藤尋宣氏をお招きし、『蔵王町教育講演会』を開催しました。講演では、視覚障害への理解を深めてもらうため、『Music For Kids Dream』という独自のプログラムを作成し、学校等では子どもたちとの触れ合いの様子などのお話をいただきました。参加者からは、『視覚障害の理解が深まった』という意見が多く寄せられました。また、実際にドラムを演奏しながらリズム遊びの時間も設定をしていただきましたので、児童生徒も楽しく参加できました。今後多くの方に呼び掛け、参加者にとってより高められるような教育講演会を目指していきます。



自分らしく幸せに生きる為に  
講師 佐藤 尋宣 氏



# お知らせ

<http://www.miyagi-pta.gr.jp/>  
☎022-295-9581・9590

## 第73回宮城県PTA研究大会 東松島大会設立総会開催

令和5年11月11日（土）、事務局校を担う矢本第一中学校において「第73回宮城県PTA研究大会東松島大会設立総会」を開催いたしました。

東松島市での開催は、2011年東日本大震災発災の年と重なり中止を余儀なくされましたが、13年が経過し再び開催地として選定されました。

総会では、大会スローガン『**ひ**ろげよう！**か**っこう・家庭・地域から **ま**んてんの笑顔！**な**ごう未来へ！』を掲げ、渥美巖東松島市長からのご祝辞、協議内容である「大会規約（案）」「事業計画（案）」など4つの議案について審議し、全て承認されました。

承認後は、大会シンボルマークの発表と大会旗の引継ぎを行いました。シンボルマークは、市内全小中学校から募集し、各校で厳選された中から6年生が描いた作品に決定いたしました。大会旗は、前開催地である富谷黒川大会実行委員会から宮城県PTA連合会会長に返還され、そして東松島大会実行委員長へ引き継がれました。

東松島市では、子どもたちの自主性や思いやりを育む様々な取り組みをしております。私たちPTAができる最大限のチカラを集結し、一緒に本大会を盛り上げていけたら幸いです。皆さま、どうぞ奮ってご参加ください。

実行委員長 浅野 和久



環境に配慮した用紙・  
インクを使用しています。

PTAみやぎ第192号 令和6年2月29日発行 年間購読料150円  
発行所/宮城県PTA連合会・印刷/有限会社 南郷印刷

## 令和6年度の主な行事予定

- 5月25日（土）  
代議員会  
会場・・・青年会館
- 8月23日（金）～24日（土）  
第72回日本PTA全国研究大会川崎大会
- 9月7日（土）～8日（日）  
第56回日本PTA東北ブロック研究大会東青大会
- 10月27日（日）第73回宮城県PTA研究大会東松島大会  
※第19回単位PTA会長会の開催日は調整中です。  
決定次第ご連絡いたします。

## 第40回宮城県PTA連合会 広報紙コンクール作品募集

各単位PTAが作成した広報紙をぜひ本コンクールに応募ください。

### 【応募方法】

令和5年4月1日～令和6年3月31日までに年1号以上の発行された広報紙全号を各2部と応募票を県PTA事務局に送付ください。

また、第40回宮城県PTA連合会広報紙コンクールより印刷物で配布せずインターネットを介して閲覧するものを「WEB」版として応募を受け付けします。

「WEB」版は応募票をmiyagi-pta@h4.dion.ne.jpまで送付ください。

### 【応募期間】

令和5年3月10日（日）  
～4月26日（金）

※応募締切厳守

### 【送付先・問い合わせ先】

宮城県PTA連合会へ直接ご連絡ください。

### 第39回広報紙コンクールの結果



<https://miyagi-pta.gr.jp/?p=3462>

## 編集後記

今年度も残すところあとわずかとなりました。この時期は風邪やインフルエンザなどの感染症がとても流行しており、体調管理に気を付けることが必要です。

そして、今年度はコロナ禍が終わり、子どもたちの学校生活も以前のように戻りつつありますが、これまで開催していた行事の必要性を考えて、継続や見直しなどの検討をすべき時期でもありました。

しかし、子どもたちは、実際に体験することで多くの学びがありますので、来年度はこれまで以上に様々な経験をしながら成長をすることを期待したいと思います。

調査広報委員 佐藤 剛太